

---

# おやし

TSUYOSHI

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

おやじ

### 【コード】

N9216C

### 【作者名】

TSUYOSHI

### 【あらすじ】

高校三年生の目線から、おやじとは、東京に上京する子供にたいして、親はどういう気持ちなのか、親との関係がうすくなってきている。親の子を思うやさしさを短くまとめた短編です。

## おやじ

どうしよう……。東京から2時間くらい離れた町に住んでいる俺  
高校3年生になって、夏休みを終わって悩んでいた。

友達たちは、就職・専門・短大・大学・プー太郎、なんて卒業した  
あとのことを考えている。

人事じゃないのはわかっているけど、自分が何をやりたいたいかなんて  
想像もしていなかった。

「夢めざしてがんばりなさい」

先生たちは言うけど、夢なんて考えてもいなかった。

今の世界学力社会はもう終わりなんて事になってるけど実際ちが  
う。

ある日の夜、テレビドラマで大学生を中心としたストーリーを見て  
思った、

(楽しそうだな)

その感覚だけで俺は大学進学をめざすことにした。

しかし問題が起こった。おやじに反対されたのだ。

おやじは小さな会社を経営しているけど儲かっていない。借金だっ  
てある。

「何で行くんだ、やりたい事でもあるのか、反対だ」

「楽しそうだから」なんて言えない俺、

高校も行かせてもらっているし、大学に行くには大金が必要だ、会社  
を継がせたいのもわからないわけじゃない。話は進まなかった。そ  
の日はもう話すのが嫌になって、

「とにかく行くから」といい外に遊びに出て行ってしまった。

それから俺は、母を説得し勝手に大学を決め、試験を儲け、合格し  
た。

その日の夜おやじに

「合格したから東京に行くよ」

おやじは大学の資料を見ながら、なにも言わずにタバコを吸ってうなずいていた。

東京で1人くらしをするため、家を探しにおやじの横に乗って車で東京に向かった。

車の中は言葉は少なく、すこし気まずい雰囲気だ。

東京につくと驚いた事におやじは知り合いに家を探してもらったのだ。

(反対していたのに)と思ったが、俺は楽しみでしようがなくキャンパスライフのことばかり考えていた。

そして、高校を卒業し桜が咲き始めた頃、引越しの日がやってきた。荷物を積み、泊りがけで東京に行くことにした。

そしてその夜は、これから1人くらしするアパートでご飯を食べながら話していた。

おやじは酒を飲んで酔っ払って

「大学いまからでも行かなくなつていいんだぞ」と変なことを言いながら熟睡した。

次の日の朝、両親が帰っていった。はじめて1人になりなんか寂しい気分になっていた。

すると携帯がなった、おやじからだ

「どうした」と俺が聞くと、

「がんばれよ」「いつでも帰って来いよ」おやじはこの言葉をいい電話を切った。

俺は抑えられないほど涙がでてきた。小さい頃からそんな言葉を言わない頑固なおやじからはじめて言われたこと、自分勝手に東京にきて、ずっと反対してると思ってた俺を心配していること。急に帰りたくなった。

そして、トイレに入ると母にばれないようにカーペットの下に3万円隠してあった。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9216c/>

---

おやじ

2010年10月15日23時01分発行